

「春に三日の晴れなし」という言葉がありますが、4月に入り連日の雨で、ゆっくりお花見を楽しむ間もなく、葉桜になってしまいました。

現在会員登録数 1,662 人さま。ご愛読ありがとうございます。次号は5月20日発行の予定です／

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》 YO! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 56

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

《4》 行って来ました!

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

● クラウス・コルドン講演会の報告集を発行しました

昨年11月に大阪府立中央図書館で開催しました、ドイツの児童文学作家クラウス・コルドン講演会「わたしの物語作法ー「古き」ベルリンの若者たちの今」(主催: 国立国会図書館 国際子ども図書館、大阪府立中央図書館、一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団)の報告集を発行しました。

コルドンさんの講演(予定稿を含む)、酒寄進一さんの講演、質疑応答などを記録しています。実費で販売いたします。

発行: 当財団 2015年3月 A4判 35頁 800円+税

● フォーラム「鳥越信の仕事を探る」の報告集を発行しました

今年1月に大阪府立中央図書館で開催しました、フォーラム「児童文学者鳥越信の仕事を探る」(主催: 一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 / 子どもゆめ基金助成事業)の報告集を発行しました。実費で販売いたします。発行: 当財団 2015年2月 A4判 56頁 1000円+税

● ウェブサイト「本の海大冒険」をリニューアルしました

インターネットで読みたい本が探せるサイト「本の海大冒険」をリニューアルしました。佐々木マキさんの絵本に登場する「ムッシュ・ムニエル」や「ねむいねむいねずみ」をナビゲートに、クイズや思いついたことばによる本の検索を楽しむことができます。

今回、新しい本の情報やコンテンツの追加、「本さがしゲーム」の更新、作家インタビューの追加などを行いました。また、タブレットやスマートフォンでも利用していただけるようになりました。

※ 平成26年度子どもゆめ基金 教材開発・普及助成活動

<http://www.justice.co.jp/iiclo/>

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

【2】コラム

\*\*\*\*\*

《1》 Y O ! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

\*\*\*\*\*

『鹿の王』上・下 上橋菜穂子/著 KADOKAWA 2014年9月

対象年齢：小学校高学年以上

あらすじ：元戦士で奴隷になったヴァンは、岩塩鉱で狼のようなモノに襲われ、他の者が病で倒れる中、生き残り、もう一人だけ生き残った赤ん坊を見つけ、二人で旅に出る。一方、岩塩鉱の事件を調べていた天才的医師のホッサルは、ヴァンが生き残った足跡を見つけ、病気の治療法を見つけるために、ヴァンを見つけようとする。背後には、今国を治めている東乎瑠（ツオル）、征服された国アカファ、アカファの前に病気のため国が滅びかけ、知恵を持って生き残っているオタワル、辺境地域の陰謀がひしめいていた。

Y：国際アンデルセン賞受賞作家にふさわしい物語性豊かな作品でした。謎解きがあり、冒険物語であり、恋愛物語であり、国や民族が関わる政治と歴史の物語、スケールの大きいファンタジー作品だと思って読みました。

O：私たちがこのコーナーで取り上げようと決めた後、本屋大賞2015を受賞しました。この作品が児童文学の枠を越えて読まれているということですね。

Y：いわゆるボーダレス現象が起こっていて、児童文学作品、YA作品と大人の小説との境界がどんどんあいまいになっている状況があり、この作品もそのような読まれ方をしているということだと思います。

O：ヴァンとホッサルという二人の主人公がいて、ヴァンは肉体派、ホッサルは知性派。いわゆる体力勝負ではないヒーロー、ホッサルの造型に新しさを感じました。ただ、魅力的だったのはやはり、ヴァンの方というのが残念な気持ちがしましたが・・・

Y：これまでバルサやエリンなど、女性の主人公の印象が強かったのですが、今回は、男性二人の主人公でした。

O：それぞれに女性のパートナーができますが、ホッサルの助手、ミラル、ヴァンを探す役割を担った狩人のサエとともに、男性と対等に描かれています。ヴァンが岩塩鉱で見つけて育てた赤ん坊のユナがかわいがられる存在として描かれていただけなのは少し物足りなかったです。

Y：この作品は、第4回日本医療小説大賞も受賞しました。政治的な陰謀によって犬を媒介にしてウィルスが撒き散らされるという内容は現実にも起こりうることだと背筋が寒くなりました。

○：上橋さんの作品では、世界が「辺境と中心部」「少数派と多数派」「支配の多層構造」など、複眼で描かれており、辺境から見た中心に対する厳しい目が際立っています。架空の世界の中に現代を照射するいくつかの事件や状況が描かれており、人物やストーリーの魅力とともに、読後もいろいろ示唆を受けて考えこみました。

\*\*\*\*\*

## 《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 56

\*\*\*\*\*

### その9 おはなしを語る（3）おはなしを選ぶ 6

前は「二ひきのよくばり子グマ」（『子どもに聞かせる世界の民話』矢崎源九郎編 実業之日本社 1964年）の登場人物について確認しましたが、今回は、繰り返しの効果について考えたいと思います。

まず、「繰り返しが効果的に使われているか。」についてです。おはなしの中で繰り返しが効果的なのは、語りにリズムができること、同じフレーズが出てくることによって、大事な出来事が耳で確認できること、同じ（似た）出来事が繰り返されることによって、知っていることを聞く喜びがあること、繰り返しの中に変化があると、その変化がかえって際立って印象に残ることなどが挙げられます。

このおはなしは、あまり繰り返しの言葉はありませんが、キツネがチーズを食べ続け、子グマがそれを見ているところには、繰り返しが使われています。子グマはキツネが二つに割ったチーズの大きさについて、「あっ、あんなに大きさがちがうよ」「あ、あ、そっちが、小さくなっちゃった。」「あ、あ、あ、そっちが、ちっちゃく、なっちゃった」と言います。「あ」という繰り返しですが、「あ」の数が毎回増え、どんどん小さくなっていく様子がわかります。

それに対してキツネは同じような意味のことを繰り返しますが、その言葉は「まあ、まあ、ぼうやたち、さわがないで。だいじょうぶよ。おばさんが、うまくしてあげるから。」と最初に丁寧に説明し、「へいき、へいき。それなら、こんどは。」「いいの、いいの。」と、どんどん言葉が短くなっていて、やはり、チーズが小さくなっていく様子がわかります。

このように、ここでの繰り返しは、繰り返しのリズムを楽しむとともに、繰り返しの中にある変化を耳で聞くことによって変化が際立つという効果のために使われています。

\*次号は「その9 おはなしを語る（3）おはなしを選ぶ 7」の予定です。質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思えます。（Y）

\*\*\*\*\*

## 《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

\*\*\*\*\*

資料所在情報データベース補遺篇〈その6〉

ご紹介するのは以下のサイトです。

- 鳴門教育大学附属図書館 子どもの心を理解するための絵本データベース  
<http://www.naruto-u.ac.jp/library/ehon/>

同大学附属図書館児童図書室が構築した、絵本に特化したデータベースです。大学図書館に児童図書室が作られた目的は、「『生涯学習の基盤整備』の一環として、幼児・児童のために施設と情報・機能を有効活用する方策を地域の状況に応じて進めていく」こと、「学部生、大学院生に実践的な教育・研究の機会を与える」（HPより抜粋）という2点。昭和62年(1987年)5月の開室以来、地域開放を柱に活動を続けてこられたそうです。

その絵本データベース、基本となる本の情報（書名や作家名、画家・訳者名、シリーズ、原著発行国、言語等）に加えて、主人公の性別（中・女・男・男女）、年齢層（赤ちゃん・幼児・小学低・中高校生・老人など9段階）などで検索ができるのが特色となっています。

さらに、絵本の内容が6つの大主題（「生活と自立」、「自我・自己形成」、「友達・遊び」、「性格」、「心」、「家族」）と、それに連なる280の主題で分類されており、それを選択することで絵本を絞り込むことができます。

使い方は簡単。例えば、主人公が幼児の絵本を調べたいときは、「一覧」から「主人公年齢層一覧」に入り、「幼児」をクリックするだけでOK。731件と登録件数が表示されており、あらかじめ結果がわかるのも便利です。

また、本の情報と絵本の内容を掛け合わせて検索することもできます。ちなみに「幼児」「女」「散歩する」で複合検索をすると、『サリーのこけももつみ』（マックロスキー）、『おねえさんになるひ』（アンホルト）など25件がヒット。ちなみに、前者の大主題は「友達・遊び」で、主題は「食べる／手伝う／迷子になる／一人の時間をもつ」など。後者は「自我・自己形成」で、「子守をする／待つ／反抗する／孤独になる」などでした。

絵本や物語の主題や件名を体系化する試みは当財団でも「ほんナビきつず」などで行っていますが、なかなか難しいもの。その一つのあり方として注目されます。

※次号は、資料所在データベース補遺篇〈その7〉の予定です。（J）

\*\*\*\*\*

《4》 行って来ました！

\*\*\*\*\*

伊丹市立美術館で5月31日まで開催されている「誕生50周年記念 ぐりとぐら展」に行ってきました。原画170点以上が展示され、文を書いた中川李枝子さんと絵を描いた山脇百合子さんの50年の軌跡をたどることができます。

入り口には大きなたまごが横向きに転がるように置かれていて、あこがれのカステラを思い出し、わくわくした気分の中に進みます。たまごは撮影OKで、親子連れが順に写真を撮っていました。

最初は「『ぐりとぐら』の原点」というコーナーで、デビュー作の童話『いやいやえん』の挿画や、初期の作品の原画などが展示されています。絵本『た

からさがし』の、少年ゆうじとうさぎのギックが野原をかけっこしたり、幅跳びでぴょんと跳んだりしている、私が好きだった場面の原画もあって感激しました。岩波少年文庫の編集者だった石井桃子さんに原稿を見てもらっていた頃のことなどを語る中川さんの映像もあり、大きな黄色いカステラ型のソファに座って見ることができます。

そして、『ぐりとぐら』の世界』のコーナーでは、シリーズ全7作品が紹介されています。作品ごとに、絵本の場面が描かれた大きな本型のパネルが設置されていて、穴をくり抜けて両面を見ることができるようになっています。パネルには原画とともに作者二人の作品にまつわるエピソードが添えられていて、物語に親しみを感じました。葉っぱを巻き込んだ糸玉やかぼちゃなど、絵本に登場したものが大きな置物で再現されていて、小さい子どもたちには動物たちと同じサイズになった気分で「ぐりとぐら」の世界を楽しめます。

最後の「広がる『ぐりとぐら』」のコーナーでは、かるたや詩の絵本や点字絵本、海外で出版された本など多様な「ぐりとぐら」が紹介されています。昨年2月に行われた宮崎駿さんと中川さんの対談の一部分の映像も流されていて、全部見たかったなと思いました。自由に読める読書コーナーやぬり絵コーナー、グッズ売り場も大きく作られていて、子どもも大人も思い思いに楽しんでいました。(K)

---

### 【3】全国イベント紹介

---

#### ● 資料小展示「杉浦非水と『日本一ノ画噺』」

日本のグラフィックデザインの先駆者である杉浦非水（ひすい）が挿絵や装幀を手がけた、子ども向け図書や雑誌を展示します。中でも巖谷小波が文を書き、非水も挿絵を描いた豆本『日本一ノ画噺』（にっぽんいちのえばなし）は、特製書棚付の芸術品ともいえる作品です。

会 場：大阪府立中央図書館 国際児童文学館 小展示コーナー（東大阪市荒本）

期 間：開催中～6月28日（日）午前9時～午後5時 休館日あり

料 金：無料

主 催：大阪府立中央図書館 国際児童文学館

◇期間中、アンケートにお答えいただくとプレゼントがあります。

#### ● 令丈ヒロ子講演会「一冊の本ができるまで」

「若おかみは小学生！」シリーズなどで大人気の作家、令丈ヒロ子さんに、本ができるまでの秘密や、子どもの頃の読書についてお話しいたします。

講 師：令丈ヒロ子（作家）

日 時：5月3日（日・祝） 午後1時30分から3時

場 所：大阪市立中央図書館 5階大会議室（大阪市西区北堀江）

定 員：300名（当日先着順）

主 催：大阪市立中央図書館

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/04\\_other/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html)

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

---

#### 【4】プレゼント

---

今号の【1】お知らせで紹介しました『クラウド・コルドン講演会報告集』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガ NO.56プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ(5)このメルマガのご感想 をお書きのうえoffice@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は5月11日(月)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

#### 編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

肘に水が溜まり、整形外科なる医院に初めて行った。先客が30人ほど、スポーツで怪我したらしい中高生が2人、あとはリハビリだけの人がほとんどで、年齢70歳超の方が多くにお見受けした。「美容整形」と勘違いしたわけではないが、ここは超高齢社会、私はまだ“若手”なのだ…。で、さほど待たずに診察。水を抜いてもらい帰宅。妻に「注射器で11ccあった」と言えば、「大さじ1杯もないね」。いやいや、料理じゃないですって…。(A)

---

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

- このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。
- 配信の登録・解除・変更は、  
[http://www.iiclo.or.jp/m1\\_magazine/index.html](http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html) パソコンからどうぞ
- このメールの送信アドレスは配信専用です。
- 記事の無断転載はご遠慮ください。

---

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>  
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内  
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp

---